

会議等名	海老名市高齢者保健福祉計画策定委員会 第2回委員会
日 時	令和2年1月31日（金） 午前10時30分から12時20分まで
場 所	海老名市役所 702会議室
出席 者	<p>委 員： 斎藤委員、石井委員、鮎澤委員、柳下委員、宇津木委員、内山委員、大濱委員、窪田委員、佐々木委員、河野委員</p> <p>事務局： 鶴間保健福祉部次長（福祉担当）、 小松保健福祉部次長（健康・保険担当）</p> <p>【介護保険課】 小黒課長、三浦主幹兼介護認定係長、三輪介護保険係長、 高橋介護保険係主事補</p> <p>【地域包括ケア推進課】 大島保健福祉部参事兼課長、田中主幹兼係長、高村主事</p>
<b>【概 要】</b>	
1 開 会	
・会長あいさつ（内山委員）	
2 議事	
(1) アンケート調査について	
以下の①、②を事務局から説明後、まとめて質疑応答を実施。	
① アンケート調査について（概要）	
資料1に基づき、事務局（介護保険課）から説明。	
② 在宅介護実態調査について	
資料2に基づき、事務局（地域包括ケア推進課）から説明。	
《委員からの質問・意見》	
・今回の調査は平成30年10月から1年半かけて行っており、なぜ前回より長いのか。	
・調査はいつ行うのか。	
・介護認定調査は、1週間に約90件行われており、1ヶ月で360件できるのであつという間にできるのではないか。	
・前回の調査結果では施設入所を検討していない方が多く、施設数は十分であると分析しているようだが、入所待機者数が200、300人いると聞く。施設を検討していない理由はなんであろうか。施設数が足りていないのではないか。	
・介護は在宅では月6万円ぐらい、施設では月20～22万円ぐらい支出がある。施設入所は経済的に困難な方が多いと思うので、経済状況の調査や対策を市で行い、分析してほしい。	
・調査の設問が前回と同様であれば、7期の調査結果を8期プランの参考に	

できないのか。

- ・資料2の調査票Bの問3で、行政としてどこまで支援できるのかといった項目がないと他人事のように感じる。

#### 《事務局回答》

- ・調査は介護認定調査時に、同意してくれた方に調査員が聞き取りで行っている。

前回は半年で行ったがハードルが高く、早めに始めた。サンプル数の低さは、調査への同意を得られにくいためであるが、協力をお願いしサンプル数を上げていきたい。

- ・特養の待機者数に関しては、市内で柏ヶ谷に1施設建設中であり、開所すると約100人入所できる。昨年の待機者数は約160人であり、減る見込み。

しかし、市外からも施設に入所できるので単純計算できない。

また、待機者の方には、老健等の他の施設に入っていて順番がきてもまだ入所しなくとも良いという人もいる。

- ・特養を1施設建設するのに約3億円かかる。市では今後100床単位ではなく、グループホームや市民しか入所できない地域密着型の施設を検討していくことになるだろう。

・施設を検討していない主な理由は、本人が在宅を希望しているからではないか。看取り等の体制整備も今後の課題となる。

- ・経済状況や介護保険サービスの利用状況は、資料2の調査票Aの問14の5、6があるので、回答結果に注意しながら分析していきたい。

- ・調査結果は、前回と今回の物を比較して8期のプランに反映することはできる。

#### ③ 市独自のアンケートについて

資料3に基づき、事務局（地域包括ケア推進課）から説明。

#### 《委員からの質問・意見》

- ・在宅介護に力を入れていくのであれば、オムツの支給など財政の許す限り力を入れてほしい。例えば、介護5の方を在宅で介護している方もおり、オムツの支給の上限を増やしてほしいと言った要望も聞く。

- ・在宅福祉サービスにはぬくもり号の運行などもあるが、今回のアンケートではこの4つの設問で良いと思う。

- ・問13の介護予防に関して市で行っていることはごく一部であり、社協や自治会で行っていることが様々ある。地域の交流の場もそうでないか。

- ・設間に自治会や地区社協といった言葉をいれたら良いのではないか。

- ・介護予防に関する設問は、これで実態がつかめるのか。参加したいけどできない理由やどの程度健康維持増進に興味がある人がいてどの程度参加したいと思っているのかが分からぬ。施策の展開に持つていけない。

- ・男性の参加が少ないので、参加しない理由を聞いてほしい。
- ・お酒を出すと男性の参加が多かった。
- ・元気でない独居の男性もいるので、いずれ問題になると思う。
- ・男性のための料理教室を行っているが、参加者が少ないので広報等に載せてほしい。
- ・男性にボランティア等の役割を与えると、参加できるのではないか。
- ・積極的な参加者を表彰状等で評価してあげるような制度があると良い。
- ・高座施設清掃組合のプールで行っている介護予防教室は、タクシーが迎えに来てくれ、参加者に男女の差がない。男性が参加して成功しているので、拡大してほしい。
- ・問 15 と 16 を入れ替えた方が、回答しやすい。
- ・問 15 は介護保険料やサービスの内容を国ではなく市が決めることができるのか。また、市が聞く意味はなにか。市に対し、反発を生むのではないか。
- ・介護保険料が安くなった方が良い人もいるのではないか。例えば、「保険料はそのままで、介護保険サービスも同じでよい」といった項目が問 15 にあっても良い。
- ・介護保険料が安くてサービスが充実している方が良いに決まっている。選択肢が誘導になっているのではないか。
- ・問 16 はサービスの違いが分からぬのでどのように答えていいのか分からぬ。40 代の回答率は 30% 代と他の年代より低く、聞き方に工夫が必要である。
- ・問 16 は在宅サービスや施設サービスをそれぞれ 1 つのくくりにできないのか。
- ・問 17 は包括的な設問なので、選択肢を多様化し、3 つぐらいまで回答を選択できても良いのではないか。
- ・問 17 は高齢者保健福祉と介護保険制度についてではなく、介護保険制度についてのみ聞いているのではないか。高齢者保健福祉について聞くのであれば、健康増進や検診に関する項目などを入れた方が良い。
- ・問 17 の 1、4、5 は介護保険以外のサービスではないか。
- ・問 17 の 1 に市独自のサービスとすれば介護保険以外のサービスと分かるのではないか。
- ・問 17 は介護保険制度についてではなく、市で行っている高齢者保健福祉施策について聞きたいということでいいのか。
- ・問 17 のその他の回答結果を教えてほしい。
- ・有償運送サービスは議論しているが、運転手や事故の問題もある。
- ・発送までの期日もあると思うが、アンケートの内容を修正してなるべく早く委員にフィードバックしてほしい。

## 『事務局回答』

- ・問12の在宅福祉サービスは見直しが必要であるものや利用率が低いものを入れた。
- ・配食は4人に1人が高齢者である中で、食の確保は高齢者福祉ではなく、生活保護であるといった観点で今後議論が必要である。
- ・問13では参加できない理由も聞くように修正する。また、自治会や地区社協と言った言葉を入れるように検討する。
- ・介護保険料は市で決定することができる。3年間のサービス利用の見込みから算出する。サービスや認定者が増えれば増額する。
- ・介護保険サービスを充実させるには公費がかかる。介護保険サービスによってはやるかどうかを市で決定できるものがあり、どこまでやるのかによって保険料に影響がある。例えば、特養を作ると給付費を使うので保険料が高くなる。
- ・問15と16の順番を入れ替える。
- ・問16は介護保険制度について聞いており分かりにくいが、サービスを1つにしぶりにくい。利用していない方にとって分かりやすく表記できるよう検討したい。
- ・問16のその他は省くことも検討したい。
- ・問17は代表的な項目が1～5で、それ以外の回答は記入欄がある。  
複数回答や聞き方を検討する。
- ・コミバス、ぬくもり号、有償運送サービスは、既存のサービスをどのように組み合わせるのかが今後の課題である。共存が必要である。

## (2) その他

なし

## 3 閉会

- ・副会長あいさつ（大濱委員）

以上